

# シンポジウム いのちを育む印西の原っぱ

2012年 6月 2日 (土)  
13:30～16:30 (開場13:00)

会場： イオンホール (イオンモール千葉ニュータウン店3階)  
北総線 千葉ニュータウン中央駅 北側 徒歩5分

定員： 150名 (当日先着順)

参加費： 無料

主催： 公益財団法人日本自然保護協会、亀成川を愛する会

共催： 北総里山クラブ、里山シンポジウム実行委員会  
美しい手賀沼を愛する市民の連合会 (依頼中)

## プログラム

- 講演① 『原っぱが育むいのち～水と土と生き物たち』  
宮崎大学農学部 教授 西脇亜也
- 講演② 『原っぱで育まれるいのち～草地の蝶』  
東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授 宮下直
- 原っぱを保全している団体の事例発表 — 谷田武西の原っぱと森の会
- 印西の原っぱの全国的な重要性 — 日本自然保護協会 高川晋一
- 生態系と水循環を活かしたまちづくり — 亀成川を愛する会



問い合わせ先： 亀成川を愛する会 事務局

TEL 080-5081-6046 Eメール [kamenarilove@yahoo.co.jp](mailto:kamenarilove@yahoo.co.jp)

★ホームページ <http://www.kamenari-love.com/> ブログ <http://blog.livedoor.jp/kamenarigawa/>

日々の活動を  
載せています。

※このイベントは「里山シンポジウム 分科会」としても位置付けられています

## シンポジウム「いのちを育む印西の原っぱ」 講師・団体の紹介

### 西脇 亜也（にしわき あや）

宮崎大学農学部教授。日本の野草と野草地に関する生態学的研究の分野において第一線で活躍。野草を用いた自然緑化、都井岬草原における在来野草が外来牧草の雑草化防止に与える影響、ススキ属植物のバイオマス資源開発などについて、国内外で共同研究を行っている。また、エコファームや野生動物、鳥獣害対策にも取り組んでいる。今年、日本草地学会の草地学会賞受賞決定。著書『草地の生態と保全』学会出版センター（2010年）他。



### 宮下 直（みやした ただし）

東京大学大学院農学生命科学研究科生物多様性科学研究室准教授。長野県飯田市出身で、子供の頃から生き物好き。今回の講演では、日本の草原性蝶類の現状や、学生と調べてきた白井と印西のジャノメチョウの生態のお話を伺う。著書『クモの生態学』東京大学出版会（2000年）、共著『外来生物：生物多様性と人間社会への影響』裳華房（2011年）他。



### NPO法人谷田武西の原っぱと森の会

白井市谷田、印西市武西に残された企業庁用地に広がる湧水・湿地、草原、樹林地からなる里山を市民の森として残していくことを目的とし、2009年に設立。法人格を2010年に取得。主な活動：●里山の保全、生物多様性の保全・再生活動（草刈り、外来種除去、樹林地下草刈り、美化活動を兼ねたパトロール）●調査研究活動（指標種のモニタリング、湧水水質調査）●環境学習と環境教育活動（観察会、親子プログラム、里山研修等）



### 公益財団法人日本自然保護協会 ～現場の知識と実行力で、日本の自然を守る自然保護NGO～

1949年、ダムの底に沈もうとしていた尾瀬を守るため、生物学者や登山家などが集まり「尾瀬保存期成同盟」を結成した。1951年、尾瀬だけでなく広く日本の自然を守るため「日本自然保護協会」と改め、1960年に日本の自然保護団体として初の財団法人になった。その後も、白神山地のブナ林や石垣島の白保サンゴ礁など大規模開発の見直し、森林生態系保護地域や世界遺産条約など新制度の導入にも成果を上げてきた。地球規模の緊急テーマである生物多様性の保全のために、辺野古・泡瀬干潟などの保護活動やエネルギー利用・アセス法等への政策提言、小笠原や屋久島など保護地域での利用ルール作り、自然観察指導員の養成、里山での市民参加調査など、政策提言・調査研究・環境教育の3分野から全国の約2万人の会員とともに取り組んでいる。

### 亀成川を愛する会

タナゴやトンボなどの生きものがいつでも見られ、春の小川♪そのものだった亀成川が、ニュータウン造成に伴う治水対策のため、大幅に拡幅工事されることになり、工事を中止させたいとの思いを持つ人たちが集まって2010年6月結成。工事された区域の再生作業や生き物救出、側溝に落ちたカエルなどの救出を実施している。また、源流域を守り、手賀沼から印旛沼に至るエコロジカルネットワークを確保するため、「生態系と水循環を活かしたまちづくり」を提案している。

